50th　令和５年度３月号　［３月１５日（発行）］
校訓　自主・協同・創造

岸川中だより

川口市立岸川中学校
川口市安行領根岸374番地の１
TEL268-4506　FAX268-4761
特別支援学級　TEL268-7110
さわやか相談室TEL268-4510
https://kishikawa.official.jp

岸川中生に伝えたいこと
カッコよくあれ・カシコクあれ・ホンモノであれ、そして、シツコクあれ

校長　松田　隆幸

2030 年代に世に出て働く君たちへ…かく申す私も、「その時」はどのような世の中になっているかわからない。見当をつけろと言われても、合っているかどうかは、わからない。そんな無責任な者が申すことだが、誰もが「わからない世」であることだけはわかっている。

もう一つわかっていることがある。人口が減ることだ。すでに減り始めている。すべての都道府県で、東京ですら人口が減っている。ある学者に言わせると、国の人口が半分になるという。あのイーロン・マスク氏は「日本はこのままでは、やがて消滅する」とまで言っている。危機的な減少速度である。令和５年に成人式を行った 18 歳は 122 万人。生まれた子は 75 万人のデータもある。35%以上が 18 年間で減っている。学校でいえば、生徒数に対して先生の数が決まる中にあって。一つの学年の先生がいなくなるということだ。一つの学年の生徒がいなくなる。400 人の全校生徒数が、270 人程度になる。当然すべての学年が３クラス。他にも。人口減がもたらす世の中をイメージしてみる。既に電車・バスの運転手が足りなくなっています。アマゾンや宅急便・佐川急便など宅配のドライバーもいない。スーパーのレジ打ちなどはとっくに人手不足。ありとあらゆる仕事の担い手が不足している。解決策は３つ。１つ目バスの本数、電車の本数、コンビニの数などがありとあらゆるお店の数が半分になって、不自由な生活になっても文句を言わない。お店の数だけではない。学校の数も減るのでは？我々が行うことは、我慢するということになるのだろうか？２つ目、外国からの労働力を輸入し、不便さを解消することを試みること。我々がすることは、多様性を受け入れ、異なる文化、習慣を理解しあえるように、例えば英語でコミュニケーションがとれるようにすることになろう。３つ目、AI を全面導入して、ロボットに人の代わりをしてもらい、自動運転、自動～で、乗り切る。我々がすることは、新たな AI を開発できるように、プログラミングを学ぶ。「さて、どうする？　ＧＯするしかないでしょ！」

小学校は、その準備として、授業の中に、プログラミングと英語をすでに導入済みだ。中学校も、人口減の対応策としての学びを進める時期かと思うのだが、、、？人口が少なくなるということは、国の力、勢いも減退するということになりかねない。当然である。税収も減るのだから、国任せ、県や市任せでは話は進まなくなるかもしれない。だから今、投資でお金を回そうとしている。しかし、失敗すれば目も当てられない。そもそも、資本がなければ投資もできない。少ない人口で、今と同じ公共の支援を享受するには、税金を上げなくてはならないかも、、、そんなことも考える時が来る。デフレは脱しただろう。今年の春闘がその答えかも？変換点。それは今かもしれない。でも、誰も答えを知らない。だから、見る視点を、向きを、距離を変えることで、ヒントを、糸口を、一人一人の脳の中に収納することから始めるべきと考える。つまり、足元もさることながら、未来を見ることだ。前川・川口も忘れてはならないが、国内ではなく、世界を見ることから始める必要があると思う。スタートは世界を見るグローバルな視点。行動すべきは足元の前川、根岸。岸川中生にはそうあって欲しいと強く、強く願うところでです。世界を見定められるようカッコよくあれ・世界の動きから未来を感じるためにカシコクあれ・多くの中から偽物を見極め、世の中に貢献できるようにホンモノであれ、そして、家族・地域を末永く幸せにできるようシツコクあれ。

令和５年度全国健康づくり推進学校最優秀校を受賞しました

2023　Kishikawa.J.H.S　50th　ANNIVERSARY